

第2学年〇組 音楽科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時 (音楽室)

指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材 平調子の特徴を生かして音楽をつくろう

2 題材の目標

- (1) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴を理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けることができる。
- (2) 平調子の構成音による特徴やリズムパターンの反復や組み合わせの特徴についての知識や、課題に沿った音やリズムパターンを選択する技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
- (3) 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

3 学習の計画 (2時間完了)

- 第1時 例示されたリズムを活用し五つの音から自由に音を選択して、4小節の短い旋律をつくる。
- 第2時(本時) 4小節の短い旋律を二つつくって組み合わせ、「さくらさくら」の前奏または後奏として表現する。

4 本時の学習指導

- (1) 目標
 - 平調子の構成音による特徴やリズムパターンの反復や組み合わせの特徴を生かしながら、二つの旋律をつくり、組み合わせでまとまりのある創作表現を創意工夫することができる。
 - 創作した作品を、よりまとまりのある創作表現にするための学習に主体的・協働的に取り組もうとする。
- (2) 準備・資料
 - 教師……平調子に調弦した箏、ワークシート
- (3) 関連
 - 1年 音楽 日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう(言葉のリズムやまとまりを意識して音を選び、言葉のつながり方を工夫して短い旋律をつくる)
 - 3年 音楽 CMソングをつくろう(言葉のリズムや抑揚を捉えて言葉を選び、つなげ方を工夫してCMソングをつくる)

(4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
課題をつかむ	1 本時の学習内容をつかむ。 (1) 前時の復習をする。 ○ 五つの音を確認する。 ○ 口唱歌で「あ」～「え」のリズムパターンを確認する。 ○ グループで交代しながら順番に前時で創作したメロディーを弾く。 (2) 学習課題をつかむ。 二つの旋律をつくって「さくらさくら」につなげよう。	10	○ 箏は3人のグループに1面ずつ配置する。 ○ 平調子であることを思い出させる。 ○ 2拍のリズムは、「ターアー」と発音し、正確に2拍伸ばすことを確認する。 ○ 弾きながら口唱歌を唱えさせる。 ○ 前時の工夫点を確認させる。 ○ 旋律を二つつくり、それを「さくらさくら」の前奏または後奏にすることを知らせる。
追	2 「さくらさくら」の構成を理解する。 (1) リズムパターンの用いられ方とその効果を確認する。 ・ 最初と最後は「う」が、中間部は「あ」「え」が繰り返されることで、戻ってきた感じが出る。 ・ 「い」が最後の方で一回だけ使われているので終わる感じが出る。		○ リズムパターンと「五つの音」の用いられ方を確認することを知らせる。 ○ 教科書の〇に記号を書かせ、気付いたことはワークシートに記入させる。 ○ 最後の小節のリズムは「あ」～「え」以外であることを理解させる。 ○ 用いられ方だけでなく、効果についても考えるように促すことで、自分の創作にも生かせるようにする。

究 す る ま と め る	(2) 「五つの音」の用いられ方とその効果を確認する。 ・隣通しでつながっている部分が多く、穏やかな音楽に感じられる。 ・「う」のリズムパターンでは同じ音が繰り返されているので、戻ってきた感じがする。	23	<ul style="list-style-type: none"> ○オクターブ違う音も同じ音だと考えさせる。 ○音の上下の動きに注目させる。 ○リズムパターンとの関連性を考えさせる。
	3 4小節の旋律を二つをつくる。 (1) リズムパターンと「五つの音」からリズムや音を選択して「作品1」をつくる。 (2) 「作品1」とのつながりを考えながら、「作品2」をつくる。 (3) 二つの旋律をつなげて演奏し、グループで意見交換する。 ・真ん中の部分だけリズムが繰り返されていて、安定感がある ・作品の最後が終わる感じのため後奏が合っている。	40	<ul style="list-style-type: none"> ○「さくらさくら」の分析などを生かして、根拠や意図をもって創作させる。 ○発展としてリズムを変えることも可能だと伝える。 ○リズムや音を選択した理由をワークシートに記入させる。 ○意見交換をした上で、「さくらさくら」の前奏にするか後奏にするかを根拠をもって決定させる。
	4 つくった作品を演奏し、作品を見直す。 (1) 二つのグループ合同で発表交流をする。 ○前奏または後奏として「さくらさくら」を演奏する。 ○作品の感想を伝え合う。 (2) 作品を見直し、修正する。 ○できた生徒から箏を弾いて確かめる。 ○グループで意見交換をする。 (3) 学習のまとめをする。	50	<p>評まとまりのある旋律を創意工夫してつくっている。(発表交流, ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表して意見交換をした上で作品を見直し、仕上げることを知らせる。 ○感想はワークシートに記入し、全員の発表が終わってから行わせる。 ○「さくらさくら」の演奏に自信がない生徒の発表では、別の箏で他の生徒と一緒に演奏し、サポートさせる。 ○今の作品のよさを生かして修正させる。 <p>評よりまとまりのある作品にするために、グループで協力して作品を修正している。(発表交流, ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時からの創作活動を振り返らせる。

(5) 評価規準

- 平調子の構成音やリズムパターンの反復や組み合わせの特徴を生かしながら、二つの旋律をつくり、組み合わせで「さくらさくら」につなげ、まとまりのある創作表現を創意工夫している。(発表交流, ワークシート)
- 創作した作品をよりまとまりのある創作表現にするために、グループで意見交換をしながら、主体的に作品を修正しようとしている。(発表交流, ワークシート)

5 備 考

(1) 学級の実態

- 本学級の生徒は学習に対する意欲が高く、歌唱や器楽の活動に真剣に取り組むことができる。また、パート練習などのグループ活動では協力して表現を高めようとする姿勢が見られる。しかし、楽譜を読むのが苦手なために、創作に対して消極的なイメージをもつ生徒も多い。

(2) 指導の力点

- 1年生時で学習した「さくらさくら」を分析することで、音やリズムの組み合わせの仕方とその効果を知り、創作の際に手がかりとなるイメージをもたせる。
- 二つの旋律を組み合わせで「さくらさくら」につなげることを目標にすることで、全体の構成を意識し、根拠や意図をもって音やリズムを選択させる。
- グループ活動で作品を聴き合い意見交換をすることで、さまざまな音とリズムの組み合わせとその効果を知り、さらに自分の創作の客観的な評価を聞くことで、作品を修正するための手がかりをもたせたい。

6 指導と評価